あきたの地域医療通信

2019年1月 第32号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室

第100回夏の甲子園で金足農業高校が大活躍しました。その活躍を陰で支えたのが「チームドクター制」により帯同ドクターとして派遣された医師のみなさんでした。今年度、同野球部に帯同した1人である阿部和伸先生にお話しを伺いました。

チームドクター制とは

県スポーツ医学研究会（秋田大医学部教授・島田洋一会長）と県高校野球連盟の共催事業として2009年に始まった制度です。秋田県代表として甲子園に出場するチームに医師と理学療法士が帯同し、選手のケアを行います。医師は秋田大学整形外科学の医局から派遣され、交代でチームに帯同し、診療を行います。理学療法士は理学療法士会の方で派遣されます。

秋田大学医学部附属病院 整形外科
阿部　和伸 先生

【プロフィール】
秋田県羽後町出身。2014年に秋田大学を卒業し、由利組合総合病院で初期研修修了後、秋田労災病院、町立羽後病院での勤務を経て現在に至る。

Q1.帯同医としての役割は

A.大きな役割は選手のけがの予防と対処、そして最大限のパフォーマンスを発揮できるようにサポートすることでした。開会前や試合の合間に行われる練習に付き添い、練習後は宿舎で診察を行い、理学療法士が物理療法やストレッチ、マッサージ等を行いました。必要であれば注射や病院受診の付き添いも行っていました。夏の甲子園は非常に暑く、熱中症対策も重要であり、アイシング用の氷なども準備していました。甲子園に行く前には選手のメディカルチェックでこれまでのプレー歴やけが、痛みの経験、現在痛いところなどの問診や、筋力、関節可動域、バランスの診察を行っていました。試合前後のケアではそういった個々の特徴を念頭におき、症状に対する最適な治療を考えました。

Q2.帯同医として心掛けていたことは

A.選手たちと良好な信頼関係を築けるようにコミュニケーションを良く取るように心掛けていました。練習中は、痛みや疲労で動きの変化が現れますので、少しの変化でも気づくことができるように注意していました。痛みや疲労からけがにつながることが多く、これらは特に重点的にケアしていました。私は準々決勝から決勝まで帯同させていただきましたが、選手たちに疲労が蓄積した様子はほとんどなく、むしろ連戦で徐々に緊張がほぐれ、体が動くようになってきたと話していました。選手たち自身が連戦に慣れていたことや、意識的にセルフケアを行っていたことも、大きなけがをすることなく連戦を戦い抜けた要因だと思います。

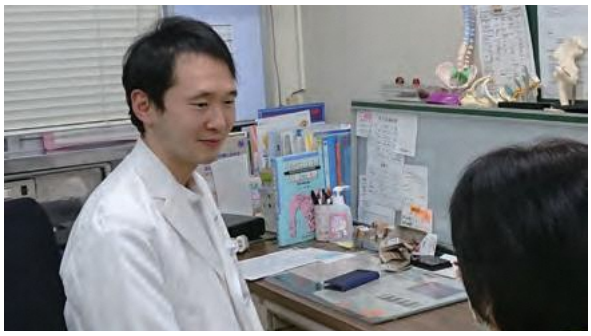
Q3.帯同して思い出に残ったことは

A.一番は準々決勝での劇的なツーランスクイズをこの

目で見ることができたことです。当日夜のケアの際、選手たちにその瞬間の気持ちを聞きました。打者、走者共に積み重ねてきた練習に裏付けられた自信が成功につながったということに感動しました。103年ぶりの決勝進出、準優勝という歴史的な快挙に立ち会えたことを大変嬉しく思います。また、野球部員全員が礼儀正しく素直で、時間を厳守し、かつ甲子園という大舞台を楽しんでいる姿も印象に残っています。

Q4.医師を志したきっかけ、専門を決めたきっかけ

A.私は羽後町出身で、地元には町立羽後病院がありました。祖父母が病院に通う姿を見ており、病院が地域住民の支えになっている事を感じていました。また、自身が病気や怪我をしたときに大変お世話になりました。人と関わり、人の役に立てる仕事がしたいと思い、医師を目指しました。



整形外科医を志したのは、医学生になって色々と勉強した後でした。初めは具合が悪くて困っている人を元気にして家に帰したいという思いでした。整形外科では、例えば、骨折して動けない患者さんが手術やリハビリテーションを行い、歩いて帰っていくというように、良くなっていく過程が見やすく、分かりやすい部分があり興味を持ちました。また実習で県内の病院を回った際、外来患者数や手術件数の多さを目の当たりにし、医師不足や高齢化が大きな問題となっている秋田県において、整形外科の社会的需要を実感じました。さらに手術など専門性のある技術を身に付けたかったことも要因の一つです。整形外科は命にかかわることは少ない科ですが、生活の質の向上に寄与し健康寿命を延ばしたり、あるいはスポーツ選手や運動を楽しむ方々のパフォーマンスを発揮する手助けができる科です。これもある意味で命にかかわっていると思い、大学6年生の時に入局を決断しました。

今後の目標として、まずは専門性を高め、運動器のスペシャリストになりたいです。一方で、医師不足の秋田では、整形外科はもちろん他分野でも幅広い知識を身に付けている必要があります。専門性と幅の広さを兼ね備え、地域医療を支える整形外科医になりたいと思います。

Q5.医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A.大学生の時は、部活動をやっていてよかったと思います。医師は体力勝負の面があり、特に外科系であれば手術操作などで筋力もある程度必要となります。先輩・後輩との関わりから上下のつながりも得られ、様々な面で部活動の経験が役に立っています。

臨床研修では様々な科をローテーションしますが、どんな知識や経験も無駄なものはなかったです。地域医療の現場では、専門外の分野の診療をしなければならない時が少なからずあるためです。例えば、救急で小児を診察する際、研修時代に小児科で診察の方法、話の引き出し方、薬の選択や量などを学んだことが役に立っています。たとえ1、2か月という短い期間でも、貪欲に知識や経験を積んでほしいと思います。

私は在学時に県の修学資金を利用しました。卒後は知事が指定する公的医療機関等に勤務する義務年限があり、その一環として昨年度町立羽後病院で勤務する機会に恵まれ、地元の地域医療に貢献するという昔からの夢が一つ叶いました。その上今回のように帯同医としてのケアが選手たちの鍛え上げた能力を遺憾なく発揮できる一助となれたのであれば、これほど光栄なことはないと思います。医師になって5年が経とうとしている今、この仕事に強くやりがいを感じています。まだ進路を悩んでいる人も、医学部を目指している人も、医学を勉強中の人も、それぞれの目標に向けて頑張って下さい。そしてゆくゆくは一緒に秋田の医療を支えていけることを願っています。

最後になりますが、秋田大学整形外科ホームページにあるブログに、今回の帯同の記事や秋田県での若手整形外科医の活動も載っていますので、よかったらご覧ください。

保健所勤務医師を募集しています

秋田県内の保健所医師として勤務してくださる方を募集しています。

【応募資格】公衆衛生行政に意欲と関心を持つ方で、採用時の年齢が65歳未満の医師免許を有する方。これまでの専門分野、行政経験等は問いません。

【勤 務 先】県内8保健所（大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、横手、湯沢）

詳細はこちらをご覧下さい　秋田県公式webサイト「美の国あきたネット」
（県政情報 → 職員・採用案内 → 保健所勤務医師の募集について）

応募については
随時受付していますので
お問い合わせ下さい

お問い合わせ先　秋田県健康福祉部福祉政策課総務班 〒010－8570 秋田市山王４丁目１－１
電話：018－860－1311 FAX：018－860－3841 E-mail：welfare@pref.akita.lg.jp

研修医講習会を開催しました!

平成30年11月16日(金)、17日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に「第12回レジデント・スキルアップキャンプ2018」を開催しました。秋田県内の臨床研修病院の指導医による「ファーストタッチ・サーキットトレーニング」を行い、研修医が日頃思っている不安や悩みを共有し、「新たな発見の機会になった」と大変好評でした。

また、実際に各病院の研修医に症例発表をしてもらい、クイズ形式で答える「JOINT CASE CONFERENCE」や後期研修医等によるトークセッションもあり、参加された研修医の先生方は熱心に話を聞いていました。

イベントカレンダー

開催月日		名　称	対　象	場　所	お問合せ先 (団体名/電話/メール)
2月	8日(金)	平成30年度第2回 秋田県臨床研修病院 合同説明会	医学生	秋田大学医学部 学生実習棟 2階チュートリアル室	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 MAIL:ishikakuho@pref.akita.lg.jp
3月	3日(日)	レジナビフェア2019 福岡	医学生	マリンメッセ福岡 (福岡市博多区)	
	10日(日)	レジナビフェア スプリング2019 東京	医学生	東京ビックサイト (東京都江東区)	

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科
救急集中治療医学講座

当講座は1996年に開講された比較的新しい講座です。その名の通り救急医学、集中治療医学の発展に寄与し両分野の専門医を育成することが課せられた役割の一つと考えられます。

救急医は救急医療の中心的役割を担い、特に多発外傷、広範囲熱傷、急性薬物中毒、ショックなどを担当し、更にはドクターヘリなどの病院前医療、災害医療、病院前救護に対するメディカルコントロールなど病院外での活動が求められています。

集中治療医は多臓器障害等の重症者の集中治療室(ICU)での治療を担当します。医療の高度化・専門化が進んだ本邦でもその必要性が認知され、2014年に新設された特定集中治療管理料1.2(7日以内13500点)では、その施設要件の一つに「特定集中治療の経験を5年以上有する医師を2名以上」という項目があり、実質的に集中治療専門医が必要とされています。秋田県内では秋田大学医学部附属病院が施設要件を満たしています。

以上のように救急医・集中治療医に対する社会ニーズは非常に高まっていますが、秋田県内の専門医数はどちらも非常に少ないのが現状です。秋田県の重症者の治療成績の向上のため、日々の臨床と人材育成に努めて参ります。

問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科　救急集中治療医学講座
准教授　奥山　学
e-mail：okuyamanabu@med.akita-u.ac.jp
Tel：018-834-1111(病院代表)
構成：救急科専門医・集中治療専門医3名、後期研修医1名

指導医メッセージ

本荘第一病院
外科
板垣 秀弥 先生

研修医時代に『初期研修はその後の医師人生を決める』ということを聞いたことがある方もいると思うが、確かに人生を変えた2年間だった。私自身、秋田で研修をし、秋田で麻酔科医になろうという人生設計があったが、初期研修医2年目の時にある指導医に出会ってから、人生設計がまるで変わってしまった。その指導医と関わることで、自分の常識は全然常識ではないという現実を知ってしまったからだ。その人をどうしたら超えられるかを考え、救急の世界に飛び込み、いろんな場所で研修をした。いろんな場所の沢山の医師と出会う中で、その女性医師を凌駕する医師たちにも出会ってしまい、自分の現状に満足するどころか、世界は広いなと思い続けた8年間だった。

研修医時代に『10年目になれば、どんな医師もだいたい一緒のレベルになる』ということも聞いたが、10年経っても目標とする頂きは遥かに遠い。どんなに研鑽を積んでも、今後もそう思い続ける医師人生になると思う。次の10年目も頑張っていく。

研修医メッセージ

MESSAGE

大曲厚生医療センター
山田　愛里 先生
（秋田大学・宮城県出身）

医師として働き始めて、早くも半年以上が経過しました。右も左もわからなかった４月当初に比べ、少しずつではありますがいろいろとできることが増え、充実した毎日を送っています。指導医・同期に恵まれ、日頃からわからないことがあれば何でも聞ける環境には大変感謝していますし、コメディカルの方々にも日々の業務で支えて頂いていることを実感する毎日です。当院では研修医が積極的に手技等をやらせていただく機会が多く、実際に手術の執刀も何件かさせて頂きました。また二年目からは研修医一人で夜の当直を任されるということもあり、夏頃から上級医と一緒に当直に入らせていただいています。当直をやっていると、普段の病棟業務ではみることのない小児や外傷の症例もあり、大変勉強になっています。同時に、自分の無力さ、無勉強さを痛感することも多く、悔しい思いをすることもありました。これからも初心を忘れることなく、周りと切磋琢磨して日々精進して参りたいと思います。

能代山本医師会病院

〒016-0151　秋田県能代市桧山字新田沢105-11　TEL：0185-58-3311 HP：http://ny-ishikaihp.jp/

能代山本医師会病院はかかりつけの先生も病院に足を運んで共同診療のできる開放型病院です。

当院は病床数200床の中小病院ですが地域医療支援病院として地域の診療所・病院と密に連携し、患者さんやご家族のサポートをしています。常勤医は16名（外科5名、呼吸器外科2名、一般内科4名、神経内科1名、腎臓内科1名、泌尿器科1名、麻酔科1名、歯科口腔外科1名）で特に外科が充実しており、昨年の全身麻酔手術は517件でした。鏡視下手術の技術認定医の審査員を務めた元大学教授も非常勤で来院しています。ただ医師はまだ不足しており、本年より医師の定年を70歳に引き上げ幅広い診療科の医師を募集しています。

当院は患者さん本位の質の高い医療を提供し、地域の人たちに選ばれる病院をめざして日々努力しています。

ロケーションは白鳥の飛来する小友沼を眼前に、遠く世界遺産白神山地を望む自然に恵まれた環境です。能代山本医師会病院は貴方を待っています。

… お問い合わせ先 …
秋田県健康福祉部医務薬事課　医師確保対策室　〒010-8570 秋田市山王４丁目１番１号
E-mail：ishikakuho@pref.akita.lg.jp　Tel. 018－860－1410

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。